

モウソウチクの親竹管理と生産量 (Ⅲ)

— 親竹の仕立時期 —

福岡県林業試験場 野中 重之

1. はじめに

モウソウチクのタケノコの発生期間は、表年(出番年)で約55日～60日間、裏年(非番年)で約50日～55日間にわたっている。タケノコの栽培上、古竹となった親竹の更新を毎年行なうことから、この2ヶ月間に及ぶタケノコ発生期間中に、目標とする本数に見合うタケノコ発生期間中に、目標とする本数に見合うタケノコは掘取らずに、将来の親竹用として残さなければならない。

そこで、今回は、親竹の仕立時期の違いが発筈にどのような影響があるかについて調査したので報告する。

2. 試験地及び試験方法

試験地概況：試験地は福岡県八女郡黒木町「県林業試験場モウソウ試験林」内で、標高は110m・方位はN・傾斜は20～30℃・土壌型はB_D・試験期間中の1979年～1983年の平均気温は15.3℃・同雨量は2,080mmであった。

試験の概要：試験区は早立て区(4月1日～5日に発筈したものを親竹用として残す)と遅立て区(4月25日～30日)とに分けて、各々100m²の4反復区による5ヶ年間の繰返しとした。

竹林の管理は、立竹密度が伐竹後150本/10a、胸高直径の平均太さは10.3cm、伐竹は10～11月に毎年5年目竹を更新、施肥は2月・6月・9月の年3回、成分施肥量は、年合計でN 32・P₂P₅ 14・K₂O 19・SiO₂ 26kg/10aである。

掘取りは、タケノコが地割れまたは地上部に僅か見えた頃とし、掘取後、通常行なわれている赤イボを2段付けて根切りし、根元最大部の周囲・穂先までの長さ・重量を測定し、形状比(長さ/根元最大部の直径)等の調査を行なった。

3. 結果と考察

(1) 発筈本数

試験区別の発筈本数(掘取本数、以下同じ)は、5ヶ年間の総計で早立て区が2,660ヶ、遅立て区が2,677ヶで、試験区別・年次毎に分散分析したところ、両区間に有意差は認められなかった。

次に、時期別に発筈本数をみたのが表-1である。両試験区共に発筈の開始は3月上旬～中旬からで、4月11日～20日に最盛期となり、5月10日頃で完了している。

当地方で早期発筈といわれる3月末日までの発筈割合では、早立て区が1.7%多くみられた。また、通常、当地方では4月10日頃が出荷区分の目安となっており、この頃までに出荷されたものが青果用に、これ以降のものが加工原料用に分けられることから、4月10日までの発筈割合(以下、青果率という)をみても早立て区の方が1.5%多く発筈していた。

これに比べて、発筈最盛期となる4月11日～20日の発筈割合では遅立て区の方が1.5%多くみられたことから、発筈本数では遅立て区の方がやや多い傾向がみられた。

(2) 試験区別の発筈重量を5ヶ年間の総発筈重量で見ると、早立て区で1,646.4kg、遅立て区で1,639.5kgとなり、試験区別・年次毎の分散分析の結果、両区間に有意差は認められなかった。

次に、表-2は時期別の発筈重量をみたもので、3月末日までの早期発筈の割合は、早立て区の方が1.0%、また4月1日～10日の期間でも早立て区の方が1.6%多くみられた。したがって、4月10日までの青果率で見ると、早立て区で34.5%、遅立て区で31.9%となり、早立て区の方が早期の発筈重量が多いことを示している。

ところが、発筈最盛期となる4月11日～20日の期間では、早立て区で34.9%に対して遅立て区では37.5%となり、早期発筈重量率の低かった遅立て区ではこの期間に逆転した数値を示し、両区間の発筈の特徴がみられた。

(3) 形状

平均重量：平均重量を試験区別、年次毎に分散分析したところ、両区間に有意差は認められなかった。更に、これを500g単位の大ききで区分した規格別割合でも両区間には差がみとめられず、全期間を通してみた平均重量では親竹の仕立時期による差はないことを示している。

しかし、この平均重量を発筈時期毎に分けて両区間を比較すると、表-3で示すように、若干の差がみられる。例えば、遅立て区の平均重量を100とした指数で時期別に比較すると、早立て区の平均重量は3月末日

105, 4月1日～10日で107, 4月11日～20日で97, 4月21日～30日で105, 5月1日～10日で96となり, 3月から4月10日までの早期のタケノコは早立て区の方がやや大きいことを示している。また, 1000g以上の大型タケノコの割合を同様に比較してみても, 早立て区のタケノコは遅立て区のそれに対して, 111・147・97・90・109となっており, 発筈の早期では早立て区のタケノコの方が大きく, 発筈の最盛期では逆に遅立て区のタケノコの方が大型を示している。

形状比: タケノコの型を表わす形状比について, 全個数でみると, 早立て区で2.87・遅立て区で2.93となり, 早立て区の方が太型, いわゆる「ふっくら」とした形状を示している。

形状比を時期別に分けて両区を比較したのが表-4で, 良好な形状比といわれる3.0以下の割合をみると, 発筈全期間では早立て区が69.3%・遅立て区が67.2%となり, 早立て区の方がやや多い。この差は, 4月10日までに発筈したものに多く, これ以降では両区

区の間ほとんど差がみられなかった。

4. おわりに

タケノコ生産上の親竹管理の中, 親竹仕立時期の違いによる発筈への影響について試験したところ, 発筈本数や発筈重量・平均重量等については, 両区間に有意差は認められなかった。

しかし, 早立て区では, 早期, 特に4月10日までの発筈本数や発筈重量がやや多く, しかもタケノコの形を表わす形状比でも早立て区の方がやや太型を示すなどの特徴がみられた。

したがって, 親竹用のタケノコを仕立てる時期としては, 最近のタケノコ価格のパターンである「早期ほど, しかも早期太型ほど高値」といわれていることからみた場合, 遅く発生したものを母竹に仕立てるよりも, 早く発生したものを母竹に仕立てた方が得策だと考えられる。

表-1 試験区別時期毎の発筈本数及び割合

試験区	発筈時期	3月	4/1	4/11	4/21	5/1	全体
		末日	10	20	30	10	
早立て区	本数	418	817	725	493	207	2660
	%	15.7	30.7	27.3	18.5	7.8	100.0
遅立て区	本数	374	829	759	500	215	2677
	%	14.0	30.9	28.4	18.7	8.0	100.0
全体	本数	792	1646	1484	993	422	5337
	%	14.8	30.9	27.8	18.6	7.9	100.0

注 1) 1979~1983年合計値

表-2 試験区別時期毎の発筈重量及び率

試験区	発筈時期	3月	4/1	4/11	4/21	5/1	全体
		末日	10	20	30	10	
早立て区	重量(kg)	105.1	462.1	574.9	368.9	135.4	1646.4
	%	6.4	28.1	34.9	22.4	8.2	100.0
遅立て区	重量	89.1	434.6	614.9	355.9	145.0	1639.5
	%	5.4	26.5	37.5	21.7	8.9	100.0
全体	重量	194.2	896.7	1189.8	724.8	280.4	3285.9
	%	5.9	27.3	36.2	22.1	8.5	100.0

注 1) 1979~1983年合計値

表-3 試験区別時期毎の規格割合

単位%

時期	試験区	(g)	101	501	1001	1501	2001	2501	3001	
		以下	500	1000	1500	2000	2500	3000	以上	
3月	早立て区	24.6	65.8	9.1	0.5	0	0	0	0	251.4(%)
	遅立て区	29.1	62.3	8.3	0.3	0	0	0	0	238.2
4/10日	早立て区	12.8	45.7	22.5	13.3	4.9	0.6	0.1	0.1	56.56
	遅立て区	11.4	49.6	26.2	9.7	1.8	1.0	0.2	0.2	52.48
4/11日	早立て区	10.5	37.2	22.7	14.7	7.2	3.4	2.2	2.1	79.19
	遅立て区	10.3	37.7	21.6	15.3	6.5	4.2	2.4	2.0	81.01
4/21日	早立て区	7.7	42.2	25.6	11.6	6.5	3.0	1.6	1.8	74.97
	遅立て区	10.4	42.0	20.8	14.4	8.4	2.6	0.6	0.8	71.04
5/110日	早立て区	9.7	44.3	24.2	11.6	6.3	2.4	1.0	0.5	65.38
	遅立て区	9.3	46.0	24.7	6.5	8.4	3.3	0.9	0.9	67.46
全体	早立て区	12.8	45.7	21.2	11.2	5.2	1.9	1.0	1.0	61.89
	遅立て区	13.2	46.2	21.3	10.6	4.6	2.2	1.0	0.9	61.24
両区計		13.0	46.0	21.2	10.9	4.9	2.1	1.0	0.9	61.56

注 1) 1979~1983年合計値

表-4 試験区別時期毎の形状比

試験区	時期	3月	4/1	4/11	4/21	5/1	全体
		末日	10	20	30	10	
早立て区	形状比	2.54	2.58	2.79	3.21	4.15	2.87
	%	94.3	87.7	70.4	41.0	8.8	69.3
遅立て区	形状比	2.53	2.65	2.83	3.29	4.18	2.93
	%	90.4	87.4	69.8	36.7	11.6	67.2

注 1) 1979~1983年平均値

2) 上段は形状比 下段は形状比3.0以下の割合